

## 現地発着手配旅行 アンマン発着（2名様より）

- ❖ サルト、ジェラシュ遺跡、ベタニ観光  
29,800 円／お一人様
  - ❖ ペトラ観光  
34,800 円／お一人様
  - ❖ ワディラム砂漠観光  
34,800 円／お一人様
- （料金は現地ガイドとドライバーのみ付きます）  
現地代理店 Creative Tours, Amman, Jordan



## ● 旅行説明会 ●

日時：12月16日（木）17:00～

場所：西アフリカ料理店カラバッシュ

住所：〒105-0013 東京都港区浜松

町 2-10-1 浜松町ビル B1

電話番号：03-3433-0884

アクセス：

JR「浜松町」南口 S5 階段金杉橋方向

出口（S5 階段）より徒歩 90 秒

都営浅草線 & 大江戸線「大門」駅 B2

出口より徒歩 4 分

都営三田線「芝公園」A3 出口より徒歩

6 分

### ●スタディトリップ in 死海

中近東の初めの誘いはモザイク画の町マダバです。ここにあるマダバの聖ジョージ教会の床にはモザイクで描かれた聖地エルサレムの地図が残っています。教会内は私語厳禁ですが、入口に描かれている地図を基に聖地エルサレムやベツレヘムなど探してみたいかがでしょうか。教会付近にはモザイク画を修復、復元、制作を行うマダバモザイクスクールもあり事前予約で見学可能です。死海を望む断崖の上に立つのが死海ミュージアム。こじんまりとした雰囲気を出す館内は死海の歴史、自然史、文化遺産など紹介してあります。JICAはこの博物館の建設や活動、死海そしてパレスチナとイスラエルが臨める展望台、ヨルダンの観光開発を支援してきました。そして眼下に広がる死海。イスラエルやパレスチナに沈む太陽を望める絶景の死海ビーチ。しかし死海の水量は年々減り続け、環境問題となっています。日本に聞こえてこない中近東の話題も触れられることでしょう。

### ●スタディトリップ in 聖地

イスラム教、キリスト教、ユダヤ教の聖地、エルサレム。東へ向かうゲートのダマスカス門をくぐります。旧市街には岩のドーム、嘆きの壁、アルメニア教会、神殿の丘などがありそれぞれの宗教にとって聖地を表しています。今もなお存在する文化や習慣は昔から変わりません。じっくり歩きながらそれらを日常生活に取り入れている地元の人たちを見ればリアルな平和の意味が伝わってくるでしょう。ヘブロンでは旧市街や地元のグラス工場を訪ねたり、ベツレヘムでは自由行動の時間を使って中心街を歩いてみたいかがでしょうか。

### ●スタディトリップ in ヨルダン

1967年以降、ヨルダンの首都アンマン郊外バカア地区に設立されたヨルダン最大のパレスチナ難民キャンプ。ここではJICAが難民女性の仕事向上のための職業訓練センターを設立。伝統的に女性が仕事をすることがタブー視されていたジェンダーを克服し、せっけんや香水ビジネスで収入を獲得できるよう人材育成を支援しています。そしてゴラン高原が望めるビザンチン時代の遺跡が残るウムカイス遺跡では、国士館大学が遺跡の発掘と保護の支援を行ってきました。現在は人材養成によって培われたヨルダン人専門家が現在引き継いで作業を続けています。ウムカイス遺跡近郊イルビッドにある国立ヨルダン科学技術大学では日本の文化やアニメに興味を持つ地元の学生たちがインターネットや文化祭を通して日本に住む人たちと交流を行い日本を学んでいます。ここでは人材養成の現場と将来の知日派と巡り合えることでしょう。

### ●スタディトリップ in パレスチナ

ヨルダン川西岸のジェリコには8世紀にたてられたヒシャム宮殿遺跡があります。JICAは中東最大級のヒシャム宮殿モザイク画の保護支援とパレスチナ観光開発のインフラ整備支援を行っています。またJICAは2006年に日本政府が提唱した「平和と繁栄の回廊」構想の旗艦プロジェクトであるジェリコ農産加工団地（JAIP）において、工業団地運営管理機能や入居企業へのインセンティブサービス提供機能の向上を支援しています。JAIPでは、オリーブオイルを材料に使った石鹸や、オリーブの葉から抽出したエキスで作った健康食品を工場生産している企業が稼働しており、輸出展開も行っています。ここでは観光開発や経済援助のハード面を実感できることでしょう。

## 企画者から

聖地エルサレムを含むイスラエル、パレスチナ、ヨルダン訪問は文化遺産巡りや異文化体験に関心を持つ旅行者に、とても魅力的なコースであり、年間を通じて数多くのツアーが催行しています。しかしその舞台裏である観光開発やインフラ整備の現場は意外にも私たち日本によって支えられてきた事は知られておりません。3 大宗教の聖地における共存の姿、文化遺産や観光開発を支える姿、これらは全て「ヒト」なのです。このトリップの一番のヴァリューは、直接、日本の国際援助の現場を見聞出来る事です。今、何が起きているのか、これから私たちは何をすべきなのかを、このトリップを通して感じて頂ければ幸いです。